

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校のあり方・教育観の方向性を統一することにより、企画力・教育力・組織力を構成要素とする「学校力」の向上を図る。それにより、生徒一人ひとりが、個性・能力を最大に伸ばし、自ら進路目標を選定し、その目標達成ができるよう、学校は、最大限の支援をするとともに、高い実践力と深い寛容性を有し、創造力豊かなグローバルな視野に立つ人材を育成する。

1. 学習指導・進学保障体制の充実を果たし、「生徒を伸ばし、伸びいく学校」を実現する。
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己向上に努める生徒を育成し、「活みなぎる、規律ある学校」を推進する。
3. コミュニケーション能力を身に付けた、これからの国際社会の中で活躍する人材を涵養し、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす。

2 中期的目標

【次の五十年に向かって颯爽と】

(一昨年創立 50 周年を迎えた本校は、これまでの取組みを踏まえ、更なる充実を図るための様々な施策を総合し、校歌の歌詞である「颯爽たり 枚方」に因み制定する)

- 1 学力向上と進路・進学保障への取組み（「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現）
 - (1) 「学力を伸ばす、充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。
 - ア・授業アンケート、授業見学などを通じた教員相互間の授業研究の促進などをおして授業力改善を図る。
 - イ・授業アンケートにより授業満足度を測定、分析し、授業力向上を図る。
 ※授業満足度（「授業アンケート、総合評点 4 点満点）（平成 25 年度 3.09 ポイント）を毎年引き上げ、3 年後には 3.2 ポイント実現を目標とする。
 - (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路・進学保障体制をさらに充実させる。
 - ア・3 年間を見通したキャリア教育計画を確立させ、実施する。
 - イ・LHR 等を活用し、社会で活躍する卒業生の講話の実施など、自ら将来設計ができるよう支援するとともに、志学、人権教育の指導計画の充実を図る。
- 2 「活気のある学校、規律ある学校」の取組み
 - (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。
 - ア アルバイト禁止の指導の徹底を図り、生徒が学校生活を更に充実させるような状況を醸成する。
 - イ 部活動加入率を上昇させる。
 ※部活動参加率（平成 25 年度当初は 72%）を 3 年後には 80%以上へ
 - (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる
 - ア 遅刻指導、服装指導の継続と強化
 ※遅刻者数を 3 年後には 1000 未満を達成・維持させるとともに、制服の端正な着こなしを継続させる。
- 3 国際交流活動の充実と英語力向上の取組み
 - (1) 学習機器の活用や授業方法の研究をおして使える英語力の伸長を図る。
 - ア 英語検定、TOEIC 等の受検を推奨するとともに、準備講習等の実施等を推進し、合格者数（得点）の上昇を図る。
 ※英検 2 級（合格者数平成 25 年度 27 名）を 3 年後には受検者数 120 名以上、合格者 35 名以上、準 2 級については、受検者数 130 名以上、合格者 75 名以上の実現をめざす。
 - (2) ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させるとともに、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、世界平和へ貢献できる人材の涵養を図る。
- 4 教員組織体制の強化と環境整備（「チーム・枚高」へ）
 - (1) 広報活動の充実と ICT を活用した情報処理体制の確立を図る。
 - ※ 学校案内パンフレット、学校ホームページの更なる改良を図る。
 - (2) 教育環境施設の整備とエコ対策の強化を図る。
 - ア 校内ごみ資源分別の徹底と光熱水費の節約に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
*生徒・保護者とも H26 年 12 月実施 【前年度と比較した肯定的評価の概況】 ○ 全体的には、改善している評価が多数となっている。 ・生徒・・・52 項目中、38 項目（73%）で改善 ・保護者・・・42 項目中、37 項目（88%）で改善 【学習指導等】 ○ 肯定的評価が増加した主な項目 ・他の先生が授業を見学に来ることがある（21.1%増、生徒） ・学習と部活動の両立を大切にしている雰囲気がある（12.6%増、生徒） ・子どもの評価を適切・公平に行っている（8.4%増、保護者） ○ 肯定的評価が減少した主な項目 ・他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。（6.2%減、保護者） 【生活指導等】 ○ 肯定的評価が増加した主な項目 ・チャイム即授業の雰囲気がある（10.2%増、生徒） ・子どもに関する個人情報を守られている（12.3%増、保護者） ○ 肯定的評価が減少した主な項目 ・いじめなどについて、真剣に対応してくれる（11.5%減、生徒） ・生徒会は活発であると子どもから聞いている（7.2%減、保護者） 【学校運営】 ○ 肯定的評価が増加した主な項目 ・保護者や地域から意見を聞く機会を設けている（11.2%増、保護者） ・ホームページはよく役立っている。（10.3%増、保護者） ○ 肯定的評価が減少した主な項目 ・ボランティア活動が活発である（9.4%減、生徒） ・他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる（6.2%減、保護者）	*委員構成 6 名（大学教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、PTA 会長） ○ 第 1 回（6/18）「H26 年度学校経営計画について」 ・グローバル人材の育成に関しては、語学教育だけではなく、文化や歴史的背景など、国際理解教育の充実に取り組んでいくことが必要。 ・「規律ある学校」の基本となるのは「挨拶」。企業でも新入社員にまず求めるのは、「挨拶」ができること。 ・人権教育についての時間を確保し、継続的に実施しようとしている姿勢は評価できる。 ・教職員の努力の成果が実を結びつつあり、良い方向に向かっている。 ○ 第 2 回（11/11）「H26 の取組みについての中間報告」 ・「授業力の向上」と「生活指導」を両輪として、進路実現を果たしていくことが重要。 ・進路実現に向けての努力は、その後の人生に必ず生きてくる。あきらめずに努力ができる生徒を育てるためにも、最後まで丁寧にしっかりと進路指導を心がけてほしい。 ・どのような進学先を選択するかよりも、どのような姿勢で勉強に向き合ったかが重要。学生の頃に経験した様々な努力が、社会に出た後、物事に真摯に対応できる力となる。 ・（見学していただいた首席の授業に関して）生徒が自身の考えを自由に発言する場面と、集中して教員の話聞く場面とが、明確に区分され、メリハリのきいた良い授業。 ・（同）生徒がしっかりと自分の意見を述べている点良かった。 ○ 第 3 回（2/19）「H26 年度学校評価について」 ・教員相互の授業見学については、他教科であっても、目標の設定・板書の工夫・機器の活用など、ベースになる部分は共通。授業力の向上にむけて、一層活性化すべき。 ・小学校における英語の教科化が予定されていることも踏まえ、地域の小中学校と本校が連携することで、枚方高校の英語教育力を発信することができるのではないか。 ・学校教育自己診断は、生徒・保護者とも肯定的な評価が増加しているが、悩みやいじめへの対応に関する項目に、「D（まったくあてはまらない）」を選択している生徒がおり、注意が必要である。

府立枚方高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路・進学保障への取組み	(1) 「学力を伸ばす、充実した授業」をめざした授業改善への取組み (2) 進路指導の充実と進学保障体制の強化	ア 「授業アンケート」を全学年、全教科で実施し、結果を集約し、分析する。(集約は指導教諭、教務部中心、分析・改善は各教科で担当) イ 教員相互の授業見学を実施し、教員相互間の授業研究の促進を図る。(相互意見票(仮称)の交換などの方策をとおして実施) ア 特に新1年生の入学当初の指導(中学生から高校生へ)、をはじめ各学年の転換期指導(自覚的な受験生への転換、自己実現の体勢への転換)に重点を置き、学習習慣や進学に対する姿勢を確立させるための具体的方策を検討し実行する。 イ・学力テスト及び校内模試を利用した学習指導、進路指導の充実と改善を図り、学力テストについては全員受験をめざす。 ・担任の進学指導を援助し意見交換をする場として、「志望校検討会議」「一般入試に向けての説明会」を実施する。 ウ 社会で活躍する先輩や外部の講師を活用したキャリア教育や人権教育等に関する講話を聞く機会をつくる等共感力を持つとともに、多面的なもの見方ができ、夢と志をもつ生徒育成のための取組みを進める。	ア 授業満足度(「授業アンケート」)を0.1ポイント上昇させる。(平成25年度3.08ポイント) イ 学校教育自己診断(「教え方に工夫をしている先生が多い」)の肯定率を50%以上に(平成25年度44.6%) ア 生徒の家庭学習時間の増加(1.5倍に)(学力生活実態調査を指標とする、平成25年度1・2年平均平日41分、休日60分) イ・現役進学実績数(国公立大学3名以上かつ関関同立90名以上の合格)(25年度現役1名、80名) ・学力生活実態調査において、B1ゾーン以上の生徒を昨年度の1.1倍とする。 ウ 学校教育自己診断(「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある、人権について学ぶ機会がある」)の肯定率を3ポイント以上の上昇(平成25年度、80%、66%)	ア 授業満足度については、前年度比0.02ポイント増で微増にとどまり、目標に達していない。(△)一方で、評価の分析に関しては、別途の資料を作成したことなどにより、着眼点等を含め、教員全体での課題意識の共有は進んでいる。 イ 授業見学の積極的な公開者は、前年の数名から17名に増加し、全体の30%程度となった。また、ICTの活用が進んだこと等もあり、「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率は、52.3%となり目標を上回った。(◎) ア 本年度は、1・2年平均平日40分、休日60分となり、昨年と同水準にとどまった。反転授業の手法を取り入れるなど、学習指導のあり方についても、今後の改善が必要。(△) イ・現役合格者は、国公立大学3名、関関同立65名で目標に達していない。(△) ・B1ゾーン以上の生徒割合については、1年生は約1.17増で目標を大きく上回ったが、2年生は0.75倍となり、全体として目標を達成していない。(△)校内模試については、校内体制を見直すなどして、受験者数が増加したが、生徒の力を十分に伸ばせていないことについては、全教員で真摯に受け止め、学校として改善していくことが必要。 ウ 「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については約81%になり1ポイント増、「人権について学ぶ機会がある」については約75%になり9ポイントの増となった。(○)
2 「活気ある学校、規律ある学校」実現への取組み	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化 (2) 生活規律を確立させる取組み	ア 学校行事の充実とクラブ活動の活性化を図るとともに生徒会活動の活性化を図る。 ・文化祭・体育祭をさらに生徒主導に。 ・学校行事の際等に部活動生徒に担当させる場面を増やす等部活動加入者のセルフ・エスティームの高揚を図る。 ・リーダー講習会の充実 ・あいさつ運動、エコ運動・ユニセフ募金、ユネスコ・スクールとしての取組みなど新しい生徒会活動の展開を促す。 ア 生活規律を重視する指導の明確化を図る。 ・アルバイトの原則禁止の指導を強化 ・遅刻指導のさらなる強化 ・制服・頭髪指導の継続	ア 部活動加入率の上昇(平成25年度72%)5ポイント以上の加入率上昇を実現する。 イ 学校行事、課外活動に対する生徒満足度をさらに上昇させる。(学校教育自己診断結果による、前回87%程度、90%へ) ア・年間総遅刻者数1000人以下に。 ・制服の着こなし指導と頭髪指導の継続を図る。	ア 部活動加入率(5月調査)は75%で、特に1学年は90%近く加入する状況となっており、大幅に改善はしているが、目標には達していない。(○) イ 生徒満足度は約86%で昨年度から微減しており、一層の活性化に向けた改善が必要。(△)現在、一部の生徒が参加している枚方市と連携したボランティア活動や、保育所など地域の施設における行事への協力なども、学校全体の取組みに拡大していく。 ア・総遅刻者数については、1,151件で、昨年(1,309件)と比較すると12%減となったが、目標には達していない。(△) ・「頭髪指導は適切か」に対する肯定率は、保護者76%(前年比3ポイント増)・生徒65%(同3ポイント増)、「服装指導は適切か」に対する肯定率は、保護者78%(同0.4ポイント増)・生徒63%(同5ポイント減)で、概ね前年度と同水準を維持。(○)
3 国際交流活動の充実と英語力向上の取組み	(1) イングリッシュ・フロンティア・ハイスクールの取組み (2) 国際交流活動の活性化とユネスコスクールの取組み	ア 英検やTOEIC等受験に向けた対策講習を実施し、英語力向上のための研究(指導法、機器の活用等)を進める。 イ これまで培った国際教養科のノウハウを普通科に応用・適応させ語学力向上をめざす。(ICT機器を活用したり、少人数指導を実施) ア ユネスコ・スクールとしての活動を展開する。(生徒会活動との関連を図り、行事を企画・実行する。) イ 海外語学研修(オーストラリア)の充実、姉妹校との交流を実施する ウ 異文化理解のための外部講師等を活用した講演会を各学年実施する。	ア 英検等(TOEIC、TOEFL)受験者数、合格者数の増加を図る。(25年度227名、2級27名)平成26年度240名以上、2級合格30名以上、準2級70名以上を目標とする。 イ 各種英語(含多言語)スピーチコンテスト等参加者数、入賞者数を増加させる(平成24年度は大阪府コンテストに2名参加、1名準優勝、近畿大会へ) ア 生徒会を中心としたユネスコ・スクールの取組みを具体化するために、生徒会中心の行事を活性化させ、併せてユネスコ・クラブ等の設立をめざす。 イ 海外語学研修参加者のアンケート結果を分析する。 ア～ウ・学校教育自己診断(国際交流活動が活発)の肯定率の上昇。(平成25年度86%)	ア 英検受験者数185名、2級合格者15名、準2級53名で目標に達しておらず、次年度以降も継続的な指導が必要。(△) イ 「大阪府高等学校英語暗唱弁論大会」に1名が参加。府立高校国際関係学科設置校10校による「インターナショナルフェスティバル2015」に2名が参加し、うち1名が暗唱部門で優勝。(○) ア 生徒会を中心に、留学生の協力を得て、新規の取組みとなる「イングリッシュ・ハウス(英語交流会)」を開催。一方で、ユネスコ・スクールに係る活動の中心となるクラブ等の立ち上げには至っていない。(○) イ 研修成果に関する全参加生徒のレポートは「海外滞在研修報告書」として取りまとめた。全員が有意義な機会となった旨の感想。また、本年度の本校スピーチ大会のクラス代表については、4名が研修参加者。(○) ア～ウ 「国際交流が活発」の肯定率は約83%で3ポイント減となった。(△)
4 教員組織体制の強化と環境整備	(1) 生徒支援の体制の確立 (2) 広報活動の充実とICTを活用した情報処理体制の確立	ア さまざまな課題を持ち、配慮の必要な生徒に対する支援体制を確立する。(「生徒支援委員会」等を中心として個々の生徒の状況の把握に基づき、養護教諭や担任等や外部機関との連携を進める。) ア 枚高の良さをさらに発信できる広報活動の充実を図る。(発信する枚高) イ・ICTを活用した校務処理システムの円滑な運用を図る。 ・成績処理における更なる活用を図るとともに職員会議の資料等のペーパーレスを図る。	ア 学校教育自己診断(悩みや相談に応じてくれる先生がいる)の肯定率を60%以上に。(平成25年度56%) ア 進学希望者数の増加(入学希望者選抜における競争率の上昇)、学校説明会の参加者数の増加(平成25年度は約1200人)の1割増をめざす。 イ 使用する用紙の消費量の減少を図る。	ア 「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率は約47%となり、9ポイント減となった。(△)生徒支援委員会に関しては、組織としての機能等も整理され、問題なく運営できている一方、個々の教員が日常の生徒の不安や悩み等に添う姿勢を持つことが一層必要。 ア 前期1.63倍(前年度2.08倍)、後期1.34倍(同1.15倍)となり、全体としては目標に達している。(○)また、学校説明会参加者数は1,210人となり、昨年度(1,184人)を上回り、過去最高を更新したが、1割増には至らず。改善を加えた全体説明会に対する肯定的評価が9ポイント増となるなど、参加者の満足度は向上(○) イ 校務処理システムの校内運用体制は、概ね完成。(○)ペーパーレス環境の推進に関しては、「スクールドライブ」の活用が定着しつつある。(○)